

# 平成31年度 学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	節度と規律を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	--

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域と学校が共に教育力を高めていく 3 基本的な生活習慣の確立をめざし、規律ある学校生活を送る 4 生徒の自主活動を通し、社会に貢献する心豊かな人間形成を図る
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 ( 1 月 2 0 日 現 在 )		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 1 月 2 0 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	成績不振者、のべ欠点数は減少傾向にあり、成績優秀者は増加傾向にある。進路ガイダンスや、基礎力診断テスト等を通し、進路に対する意識は向上してきている。進学を希望する生徒も増えてきており、進学希望者に対する指導を充実させる必要がある。	(1)学習環境を整備・充実させ、学習に集中できる環境を整える。学び直しを活用し、生徒の基礎基本を徹底させ、「わかる」授業を目指す。 (2)段階的に生徒の進路意識を向上させ、生徒一人一人の望ましい進路実現を目指す。	①チャイムtoチャイムの授業実施。日々の授業規律の確立。 ②学習サポーターを活用したTT授業および考査前の学習会を実施。 ③授業確保に向けた行事予定の作成。 ④学び直しによる基礎学力向上。 ⑤自己理解を進めるための様々な取り組みを進める(1年) ⑥自己実現のための進路ガイダンス機能を充実させ、進路意識の向上を図る。(2年) ⑦JSTを活用した面談を充実させ生徒全員の進路希望実現を図る(3年)	①成績優秀者5%増加、成績不振者5%減少。 ①「学習アンケート」における「わかる」回答の増加。 ②学習サポーターの活用回数増加。 ③授業回数の増加。 ①基礎力診断テストの結果。(4月と1月の年2回実施) ②自己理解を進めるための活動 ③進路ガイダンス後の生徒からの評価 ④生徒の進路希望実現割合(100%を目指す。)	「わかる」授業の実施はほぼ達成できた。 ①成績優秀者、成績不振者ともにほぼ増減なし。 ①「学習アンケート」における「わかる」回答7.1%増加。 ②学習サポーター活用回数はほぼ増減なし。 ③授業時間数30時間増加。 進路意識の向上について、概ね目標を達成できた。 ①基礎力向上者47名。 ②各学年で実力養成講座を通年で実施。 ③ガイダンス後に行った生徒からの評価平均4.1(5段階)。 ④3年生の進路希望実現割合88.1%(3月11日現在)。	A	授業を確保し、基礎基本の徹底を図り、成績優秀者を増加させ、成績不振者を減少させる。 進路意識を向上させ、「わかる」授業から進学に向けた実力養成を意識した学習、進路指導を学校全体として充実させる。
2	行事や公開授業の保護者の参加率は増加傾向にあるが、まだまだ低い。学校の取組を、地域、近隣中学校、外部機関にアピールしていく。HPや一斉メールの活用が課題である。	(1)HPやhokuryo.now(学校通信)を用いた情報発信を充実させ、家庭や地域に本校の取り組みが伝わる体制を整える。 (2)学校説明会や中学校訪問で、在校生に参加を呼びかけ、生徒の活躍の場をより多く設定していく。	①hokuryo.nowを岩槻区内8中学校に配付。 ②保護者向け授業公開(年2回)、授業公開週間の実施。 ③学年通信や保健便りの発行。 ④保護者に学校行事への積極的な参加を呼びかける。 ①学校説明会ポスター作成。中学校への配付。 ②中学生向け公開授業の実施。	①hokuryo.nowの発行数。 ②保護者の参加数。 ③学年通信、保健便りの発行数。 ④各種行事・研修会への保護者参加数。 ①学校説明会の参加者増加。 ②公開授業への参加者数。	家庭や地域への発信に関する目標は概ね達成できた。 ①hokuryo.nowを通年で発行。岩槻区内8中学校にも配布。 ②授業公開への保護者の参加者数は昨年度とほぼ同数。 ③各学年通信、保健便りを年間を通して定期的に発行。 ④各種行事への保護者の参加率増加。 学校説明会の運営について、目標を概ね達成できた。 ①学校説明会への参加者数は若干減少。 ②中学生向けの授業公開への参加者は若干名。	B	学校の様子を効果的に保護者や中学生、および地域に発信する。 引き続き保護者との協力体制を強化する。 喫緊の課題である生徒募集に対して学校説明会の実施時期や内容の充実を図る。
3	以前よりも基本的な生活習慣が身につけている生徒は増加しているが、欠席や遅刻が常習化している生徒も多い。	教職員間で生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的・一貫した指導を推進していく。自主自律の精神の育成のため、マナー・時間管理の意識を向上させる。	①定期的な身だしなみ指導と確認強化週間の設置。 ②遅刻回数自己認識と特別遅刻指導の実施。 ③保護者による挨拶運動等の実施。	①身だしなみ指導該当者の減少。 ②遅刻指導対象者を昨年度より10%減少。精勤、皆勤者数の増加。 ③挨拶運動への保護者参加数。	学校全体として系統的・一貫した指導を実施できた。 ①身だしなみ指導該当者数はやや減少。 ②遅刻回数は2学期末で22%減少。 ③挨拶運動等に保護者も参加。	A	教職員間で生徒指導体制の共通理解はなされている。遅刻者数減少に向けた取り組みを継続しつつ、欠席者減少に向けた取り組みを強化する。
4	生徒会活動や部活動は活発になってきている。生徒の自己有用感を高められるよう、様々な場面で生徒が主体的に活動し、活躍できる場を設ける。	生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を促す。団活動やその他の行事を通し、生徒の自己管理能力を高めていく。教育相談については、外部との連携も強化し、特別支援教育をより一層充実させる。	①各行事で、生徒主体の運営ができるように、生徒会中心準備をする。 ②文化祭の内容の見直し、発展させる。 ③新たな部活動勧誘を計画する。 ④委員会活動、団活動を活性化させる。 ⑤教育相談、特別支援教育の充実を図る。	①生徒中心の行事運営ができたか。 ②文化祭の生徒の満足度が高く全体を通して成功することができたか。 ③部活動の加入率増加。 ④昨年度を上回る生徒の活動ができたか。 ⑤保健室利用者数や、相談者への対応。SCや教育相談員、巡回支援員、外部機関との連携。	生徒会を中心とした生徒主体の活動を促すことができた。 ①生徒会を中心に、生徒主体の活動を実施。 ②文化祭の来場制限緩和により、来場者数100名増加。 ③部活動加入率4%減少。 ④昨年度以上に生徒主体の活動を実施。 ⑤担任や学年との連絡を密にし、教育相談員と連携しながら相談活動を実施。	A	生徒が意欲的かつ自主的に活動できるようになった。引き続き生徒の自己有用感を醸成させる取り組みを充実させる。 支援が必要な生徒が増加傾向であり、各機関との連携をより一層強化する必要がある。

学校関係者評価
実施日 令和2年1月28日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>学習サポーターとして、非常勤講師にお願いできたことは生徒にとってもよいことである。 アンケート結果から、「わかる」授業が展開できたことが読み取れる。教えてもらっているときにはできることが、自分一人ですることができるようになってほしい。 家庭学習時間の確保に向けた工夫が必要と思われる。 年度評価は妥当と言える。</p> <p>中学生向けの授業公開は、もっと多くの中学生に参加してもらえるよう、中学生へのアピールが必要である。 hokuryo.nowは学校の様子がよくわかり、素晴らしいものなので、HPでも見られるように検討してみてもどうか。 年度評価は妥当と言える。</p> <p>遅刻数の減少は、学校の取り組みの成果である。来年度もぜひ目標を設定し、達成できるように努力してほしい。 挨拶も多くの生徒がきちんとできている。 年度評価は妥当と言える。</p> <p>文化祭の来場者数が増加したのは喜ばしいことである。生徒会を中心とした活動ができている成果と言える。 生徒たちが自分で考え、自分たちで動くことは苦勞も多いだろうが、社会に出て役立つ経験である。引き続き頑張ってもらいたい。 年度評価は妥当と言える。</p>